令和7年 第6回

武蔵野市教育委員会定例会

令和7年6月4日

於 教育委員会室

武蔵野市教育委員会

令和7年第6回武蔵野市教育委員会定例会

○令和7年6月4日（水曜日）

○出席委員（5名）

教育長	吉原 健	教育長職務代理者	清水 健一
委員	岩崎 久美子	委員	森田 亮
委員	岸本 葉子		

○事務局出席者

教育部長	真柳 雄飛	教育企画課長	牛込 秀明
教育企画課 学校施設担当課長	田中丸 善史	教育企画課 学校施設計画担当課長	村越 祐介
指導課長	荒井 友香	統括指導主事	高丸 一哉
教育支援課長	祐成 将晴	教育支援課 教育相談支援担当課長	志賀 直樹
生涯学習 スポーツ課長 (兼武蔵野ふ るさと歴史館 担当課長)	大杉 光生	生涯学習 スポーツ推進 担当課長	茂木 孝雄
図書館長	森本 章稔		

○日 程

1. 開会の辞
2. 事務局報告
3. 議 案 第16号 武蔵野市立学校特別支援学級等に関する規則の一部を改正する規則
第17号 学習者用コンピュータの買入れに係る議案の提出について
第18号 校内通信ネットワーク機器の買入れに係る議案の提出に

ついて

第19号 令和7年度武蔵野市一般会計補正予算に係る議案の提出
について

4. 協議事項

なし

5. 報告事項

- (1) 教育部業務状況報告（4～5月）について
- (2) 武蔵野市学校改築庁内調整会議設置要綱の一部改正について
- (3) 令和4～6年 武蔵野市の不登校・いじめ・暴力行為等に関する実態
について（速報値）
- (4) 令和7年度武蔵野市立学校児童生徒数及び学級数（確定値）
- (5) 武蔵野ふるさと歴史館企画展「霊峰富士に祈る―武蔵野の富士講―」
について

6. その他

◎開会の辞

○吉原教育長 おはようございます。それでは、ただいまから令和7年第6回教育委員会定例会を開催いたします。

初めに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、武蔵野市教育委員会会議規則第36条の規定により、議長において、岩崎委員、森田委員、私、吉原、以上3名を指名いたします。

次に、傍聴についてお諮りいたします。

定員の範囲内で傍聴の申込みがあった場合、本日の傍聴を許可することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 それでは、傍聴を許可いたします。

◎事務局報告

○吉原教育長 それでは、まず事務局報告に入ります。

教育部長から報告いたします。

○真柳教育部長 それでは、前回の教育委員会定例会以降の状況についてご報告します。

まず、議会に関することです。

5月15日に文教委員会が開催されました。行政報告は1件で、武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備の進捗状況について報告が行われました。

教育委員会に関連する主な質疑としましては、保健センターに移転するチャレンジルームの職員室に関するお尋ねには、チャレンジルームの生徒が来たときに職員が気づけるよう、職員室は入り口のほうに配置していること、職員室のカウンターの高さは腰の高さとして、職員が全体を見渡せるようにしていることとお答えしました。

次に、チャレンジルームが使用できる屋上スペースに関するお尋ねには、大きなプランターを置いて、土いじりをするなどの活動や縄跳びなど軽い運動をすることを想定しているとお答えしました。

次に、この施設にチャレンジルームが入ることによってどのような期待を持っているかのお尋ねには、チャレンジルームが保健センターに移転することで、子どもたちにとって

より心理的な安心につながる居場所となること、また様々な活動ができるよう工夫して設計されており、一人一人に応じたよりきめ細やかな支援ができることが期待されるとお答えしました。

次に、教育委員会に関することです。

5月30日に地域コーディネーター委嘱状交付式を開催しました。各校長から推薦を受けた29名の方々に地域コーディネーターの委嘱状をお渡ししました。学校、家庭、地域の協働を推進する観点から地域コーディネーターの複数配置を可能としており、本年度新たに4名の方にお問い合わせの運びとなりました。各学校に配置した地域コーディネーターと学校支援コーディネーターの連携により保護者や地域の皆様の協力を得ながら、教育環境の整備、教育活動の充実等に向けた支援を行っていきます。

次に、市内の学校の状況について報告します。

5月、6月は市内の多くの小・中学校で、運動会や学校公開、セカンドスクール、修学旅行などが行われています。運動会は、これまでに小学校6校、中学校2校で実施されました。5月31日に実施予定だった第六中学校は、雨天のため延期した6月3日も雨天であったことから、6月6日の学校公開において種目を限定して実施する予定です。今週末の中学校3校が実施すると、1学期に実施予定だった学校は全校終了することになります。

雨天順延や気温が急激に上昇した日に実施した学校もありましたが、テントや水分補給などの熱中症対策を各校で工夫して行いました。子どもの権利条例を踏まえ、各学校では演目の内容や競技のルール等を決める際に子ども主体の話合いが設けられるなど、子どもの参加を意識的に取り入れた工夫が見られました。

宿泊学習も各校で実施しており、セカンドスクールは既に第四小学校で、プレセカンドスクールは本日出発した第三小学校を皮切りに3校が実施予定です。日光移動教室も、第二小学校が今週月曜日に出発したことを皮切りに、順次実施していきます。

中学校の修学旅行は既に6校全校が実施しています。いずれの取組も現地観光協会や宿泊先等と連携を取り、田植えや自然体験、歴史的な建造物の見学など本物に触れる貴重な経験を積むことができます。

最後に、5月8日に立川市内の小学校で発生した不審者侵入の事案を受けての対応について報告します。

事案が発生した翌日の5月9日に、教育委員会から各校に対し、安全管理の徹底、児

童・生徒へのケア、保護者との相談体制づくりについて指示する文書を発信しました。また、同日5月9日に教育委員会事務局、安全対策課、武蔵野警察署で、今後の学校における防犯対策に関する協議を行いました。協議を踏まえて、武蔵野警察署、生活安全課少年係が市立小・中学校全校を訪問し、学校の門扉の開閉、来校者対応等についての確認の上、指導・助言をいただいているところです。各校への指導・助言の内容は、今後、教育委員会事務局にもご報告いただく予定です。さらに教育企画課職員も全校を訪問して、各校の門や玄関、教室の扉などの状況について確認を行いました。今後、施設面で必要な対策も行っていきます。

以上で事務局報告を終わります。

○吉原教育長 ただいまの報告にご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

岩崎委員。

○岩崎委員 ご説明いただいていたと思うのですが、学校支援コーディネーターはどのような方がなられていたかをもう一度教えてください。

○吉原教育長 指導課長。

○荒井指導課長 支援コーディネーターは現在、教育推進室の森野のほうを担当しております。各学校で行われている開かれた学校づくり協議会などを含めた学校と地域の連携について総括的に様々な助言をしたり、実際に現場に行って一緒に作業したりと、そういったことをさせていただいております。

○吉原教育長 よろしいですか。

ほかに。岸本委員。

○岸本委員 立川で発生した事案を受けて、何か現場から聞かれる声がありましたら教えてください。

○吉原教育長 指導課長。

○荒井指導課長 現場からは、引き続き、一気に学校を閉じてしまうのではなくて、地域と連携をしながら防犯の目をたくさんつくっていきたいというお声や、一方で今回の事案については不審者というよりは保護者の対応が遠因になっていることから、なかなか対応が難しいという困惑の声やご相談の声をいただいております。

○岸本委員 ありがとうございます。

○吉原教育長 よろしいですか。

ほかにご質問、ご意見ございますか。

よろしいですか。

◎議案第16号 武蔵野市立学校特別支援学級等に関する規則の一部を改正する
規則

○吉原教育長 それでは続きまして、議案に入りたいと思います。

議案第16号、武蔵野市立学校特別支援学級等に関する規則の一部を改正する規則を議題といたします。

それでは、説明をお願いします。教育相談支援担当課長。

○志賀教育相談支援担当課長 それでは、議案第16号、武蔵野市立学校特別支援学級等に関する規則の一部を改正する規則についてご説明いたします。

この規則改正は、第五中学校の特別支援学級、仮称「E組」としておりましたけれども、そちらの正式な学級名が決定いたしましたので、それに伴い所要の改正をするものでございます。

まず、議案の参考資料としまして学級だよりを添付してございますので、そちらをご覧ください。第五中学校学級だより号外ということで、学級の名称が「槻の木学級」という名前になりました。

名称の由来でございますけれども、槻の木は樺の古い名前となっております。由来としましては、槻の木のようにみんなから愛される学級になるように、どんなときも上を向く強く前向きな学級になるように、広げた枝や葉で誰かの木陰となる優しい学級になるようにという願いが込められているということでございます。また、第五中学校の特別支援学級には、境南小学校の特別支援学級のけやき学級から入学する生徒が多いので、そのつながりを大切にしたいという思いも込められているということでございました。由来については以上でございます。

このような決定を受けまして、規則改正をするというところでございます。

それでは、議案第16号の規則改正の新旧対照表をお願いいたします。

こちらの改正箇所、2か所ございます。

まず、別表第1には、学級の名称と設置している学校、障害種別が規定されてございます。こちらは、今、仮称の「E組」としておりますのを、正式な名称「槻の木学級」に改正をする。これが1か所でございます。

2か所目は、別表の第2でございます。こちらでは学区を規定しているものでござい

ますけれども、こちらも学区の名称を、今まで「E組学級学区」としていたものを、正式に「槻の木学級学区」に改正をするものでございます。

改正箇所は以上です。

最後に、付則で施行期日を定めてございます。この規則は公布の日から施行いたしますので、本日お認めをいただけましたら、速やかに公布をして施行していくというようなことを想定してございます。

ご説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○吉原教育長 学級の名称が正式に決まったことによる規則の改正の説明でございます。

ただいまの説明にご質問、ご意見がございましたらお願いします。

よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

議案第16号について採決に入りたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第16号について、本案を事務局提案のとおり決定することに賛成ということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 ありがとうございます。

それでは、本案は事務局提案のとおり決定させていただきます。

◎議案第17号 学習者用コンピュータの買入りに係る議案の提出について

○吉原教育長 続きまして、議案第17号、学習者用コンピュータの買入りに係る議案の提出についてを議題といたします。

それでは、説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 では、ただいま議案となりました議案第17号、学習者用コンピュータの買入れについてご説明を申し上げます。

買入れ予定価格が2,000万円以上であることから、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定に基づき提案する予定となっております。

それでは、内容についてご説明をいたします。

目的につきましては、市立小・中学校の全ての児童及び生徒が使用する学習者用コン

ピュータを確保するためということになります。令和3年度から使用を開始した学習者用コンピュータが5年間の更新時期を迎えるため、新たな端末を整備するものということでございます。

種類及び数量ですけれども、学習者用及び教員用コンピュータとして9,688台。買入れ価格につきましては4億2,936万2,472円でございます。買入れの相手方については記載のとおりということになっております。

参考といたしまして、納入場所や支出科目など、それから買入れの相手方の選定方法について資料を添付しております。本動産ですけれども、こちらは東京都及び都内区市町村が参加する東京都GIGAスクール推進協議会による共同調達において選定された事業者をそのまま指定をして買入れを実施するものということになっております。

以上です。

○吉原教育長 本件は市議会に議案として今後提出するというところで、今、説明がございました。

それでは、ただいまの説明にご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

では、清水委員。

○清水教育長職務代理者 東日本電信電話株式会社というところに決定したということなんですけれども、分かる範囲でいいので、この会社の評価の高かったところというのはどんなところなのか、分かれば教えてください。

○吉原教育長 指導課長。

○荒井指導課長 いわゆるNTTになりますけれども、評価、ここが高かったというよりは総合的に、本市というか共同調達部会が求めていた仕様に適した内容であったと、そのように認識をしております。

○吉原教育長 ほかにご質問、ご意見ございますか。

よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

議案第17号について採決に入りたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第17号について、本件を事務局提案のとおり決することに賛成ということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 ありがとうございます。

それでは、本案は事務局提案のとおり決定させていただきます。

◎議案第18号 校内通信ネットワーク機器の買入れに係る議案の提出について

○吉原教育長 次に、議案第18号、校内通信ネットワーク機器の買入れに係る議案の提出についてを議題といたします。

それでは、説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 では、議案第18号、校内通信ネットワーク機器の買入れについてご説明を申し上げます。

こちら買入れ予定額が2,000万円以上であることから、今後、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の3条の規定に基づく予定で、提案する予定になっております。

目的につきましては、市立小・中学校全ての校内における通信ネットワーク環境の改善を目的としてございます。昨年度、文部科学省から提示をされました児童・生徒数に応じた通信速度の基準というのがございます。こちらを満たすために性能の高い機器を購入するということになっております。

種類及び数量ですけれども、ルータを19台、それからファイアウォールを20台。

買入れ価格につきましては4,439万9,300円でございます。

買入れの相手方については記載のとおりです。

以上です。

○吉原教育長 本件につきましても、市議会に議案として今後提出するものでございます。

ただいまの説明にご質問、ご意見ございましたらお願いします。

森田委員。

○森田委員 この議案についてはないんですけども、以前、僕がPTAの会長だった頃に、教育委員会の皆さんとお話をしたことがありました。

学校のWi-Fi環境が子どもたちには開放されているんですけども、地域の方やPTAの方が来たときに、フリーで使えるものがないというお話をしたときに、その当時は契約しているWi-Fiの環境だとすぐ変更できないということでした。今回、Wi-Fiが恐らくルータ購入されて入れ替わるということだと思いますので、そういう

学校の子どもたち、先生方だけじゃなくて地域の方も使える環境というのを模索していただくと、ひょっとしたら校長先生の役目なのかもしれませんが、教育委員としてもぜひお願いしたいなというふうに思うところです。

よろしく申し上げます。

○吉原教育長 今の件についてどうですか。指導課長。

○荒井指導課長 以前もPTAとの懇談会でそのようなお話が出たということについては、私もその場にいましたので認識をしています。

そこにつきましては、ポケットWi-Fiの貸出しができるということをご説明させていただいたんですけども、学校によってはその貸出しが適切に行われていないということもその場で確認ができて、後日各学校にきちんと周知をし直して、現在はポケットWi-Fiについての貸出しで十分運用ができていくというふうに考えております。

○吉原教育長 森田委員、よろしいですか。

○森田委員 使う側からしたら、ポケットWi-Fiを一々借りるのが非常に不便なことなので、多分スイッチを切り替える、子どもたちとは違う何か割当てをできるはずなので、便利に使えるようになってほしいなと思います。

○吉原教育長 森田委員のご意見、検討課題として受け止めさせていただきたいと思えます。

ほかにご質問、ご意見ございますか。

清水委員。

○清水教育長職務代理者 要望なんですけれども、前、私、第五小学校にいたときに、職員室でWi-Fiが使える環境があったんですけども、その上の教室はWi-Fiが使えたんですけども、その脇は使えなかったという、場所によって大分そういうのがあったわけですね。

当時は使えないというのが一応原則であったわけなんですけれども、学校訪問をしていると、学校によって校舎の形状が違うじゃないですか。そういう中で、例えばWi-Fiが届きにくい教室と、よく届いている教室の差ができないように、しっかりと見ていただきたいなということをお願いしたいなと思っています。

以上です。

○吉原教育長 今のご意見、ご要望として受け止めさせていただきたいと思えます。

ほかによろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

議案第18号について採決に入りたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第18号について、本件を事務局提案のとおり決することに賛成ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 それでは、本案は事務局提案のとおり決定させていただきます。

◎議案第19号 令和7年度武蔵野市一般会計補正予算に係る議案の提出について

○吉原教育長 次に、議案第19号、令和7年度武蔵野市一般会計補正予算に係る議案の提出についてを議題といたします。

それでは、説明をお願いします。教育企画課長。

○牛込教育企画課長 では、議案第19号、令和7年度一般会計補正予算について説明します。

本件も6月の市議会に提出する議案でございます。

まず、(1)の歳出予算につきまして、大きく2点ございます。

1点目が事務局費ということで、これは境南小学校が学級増により大規模校としての取扱いになりましたもので、事務員を追加で配置するための予算でございます。

もう一点が社会教育総務費です。こちらについては、埋蔵文化財について試掘調査をしたところ本格的な調査が必要となったことから、追加で調査委託料を計上するものでございます。

歳入につきましては、これら2点の事業に対して国及び都からの補助金、交付金について計上するものでございます。

説明は以上でございます。

○吉原教育長 本件も6月の市議会に提出する議案ということになります。

ただいまの説明にご質問、ご意見ございますか。

よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

議案第19号について採決に入りたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第19号について、本件を事務局提案のとおり決することに賛成ということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○吉原教育長 ありがとうございます。

それでは、本件は事務局提案のとおり決定させていただきます。

◎報告事項

○吉原教育長 次に、報告事項に入ります。

報告事項(1) 教育部業務状況報告(4～5月)についてです。

それでは、説明をお願いします。教育企画課長。

○牛込教育企画課長 それでは、報告事項(1) 業務状況報告について説明をします。

こちらの資料につきましては事前にご覧をいただいていると思いますので、事務局からの説明は全般的なものにとどめます。

年度当初4月に定めた主要事業について、四半期ごとに進捗管理をしております。今回の資料は、事業ごとに4月から5月の間の期間の状況説明と今後の取組(案)について記載をしてございます。状況説明と今後の取組が事業ごとに太枠の中に記載をしておりますので、今回はその事業の右上に書かれた基本方針ごとにご質問、ご意見をいただければと思います。

説明は以上でございます。

○吉原教育長 それでは、各課主要事業についてご質問、ご意見をいただきたいのですが、ちょっと分量が多いですので、今、事務局からもありましたが、基本方針ごとにご質問、ご意見をいただければと思います。

初めに、基本方針の1、事業番号でいいますと1番から6番に関しましてご質問、ご意見をいただきたいと思います。お願いいたします。

森田委員、お願いします。

○森田委員 基本方針1に沿っていきます。

事業1です。開かれた学校づくり協議会が、この2か月でいろいろ会合が進んでいるんだと思うんですが、今年から、その開かれた学校づくり協議会の中で校長先生の学校運営の基本方針が諮られるというところがポイントだったのかなと思います。先生の学校運営方針というのは、一般の方もしくは学校のPTAの保護者の皆さんがどこかで見られるようになっているのかどうかというのを、まず一つお伺いします。

2番、こちらも今年から肝煎りの企画なのかなと思うんですけれども、部活動コーディネーターの拠点校方式のところ、今のところ市全体で50名の希望があるということなんですが、これは想定より多いのか少ないのか伺えればと思います。

5番にいきまして、順調に、第一中学校、第五小学校、井之頭小学校の改築が進んでいるかと思うのですが、この2か月で第五小学校のバス通学、登下校で何か特別良かったこと、悪かったこと、課題が見えてきたことがあれば教えてほしいのと、第五小学校と違って恐らく井之頭小学校から第一中学校にバスで通う場合、結構道が狭いかと思いますので、第五小学校の運営と全く同じ方向にはならないんじゃないかなというふうに思っているんですが、現状の井之頭小学校の子たちのバス通学について、決まっている、また検討していることがあれば教えてください。

以上です。

○吉原教育長 ありがとうございます。

森田委員から3点、今ご質問いただきましたが、ちょっと分けて回答を事務局からお願いします。

まず、事業の1、開かれた学校づくりの推進と地域学校協働活動の充実に関して、それから事業の2、地域と連携した部活動の推進について、この2点について、まずお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 学校の校長の経営方針などが見られるのかというところですが、学校ホームページのほうで公開するというので、既に公開している学校もございます。

次に、部活動について、拠点校に行く生徒数が想定より多かったのか少なかったのかというところですが、想定よりはやや多かったかなというふうに思っています。といいますのは、初めての試みですし、子どもたちの中にどの程度のイメージがあるかというところが分からなかったのですが、思い切って手を挙げてくれた生徒さんが存外多かったなという印象を持っております。印象で申し訳ありません。

○吉原教育長 続いて、事業の5、学校改築の計画的な推進に関して、これは学校施設計

画担当課長。

○村越学校施設計画担当課長 質問ありがとうございます。

第五小学校のスクールバスについては、5月14日に、関係者として、警備会社、バス会社、我々、それから第五小学校の校長先生にも入っていただいて意見交換をさせていただきました。

授業が始まって2か月たっているところで、前半に出ていた課題、忘れ物が出てしまったりとか、登下校のところで特に帰りに、降りたところで保護者さんが迎えに来ていなくて、ちょっとトラブルになった、そういうところがありましたので、その辺は学校を中心に保護者さんとの呼びかけする対応がありました。現在はトラブルは全て解消しているような状況で、おおむね順調に運営されているというところになります。利用者数に関しても180人から190人の間で、もうある程度固まって推移をしているような状況となっております。

次に、井之頭小学校のスクールバスについては、ご指摘のとおり、今、井之頭小学校の学校のところと、市民文化会館のところ2か所を登下校のときの乗降場所にしようとしておるところです。けれども、井之頭小学校のほうの学校周りの道路のところは狭隘という課題がございます。こちらは、大型バスを通せるのかどうかは、かなり事業に大きな影響を与えるというところになりますので、今、警察とも調整をして標識をずらすというところと、あと道路管理課とも相談をしてガードレールをちょっと移設させていただく。道幅を広げた上で、6月12日に関東バスに協力をいただいて、大型バスを通せるかどうかを検証させていただこうと思っております。

物理的にこれが難しいというふうになってしまった場合については、中型バスでの運行を検討していかないといけない。その場合にはバスの台数をその分増やさないといけないというところで、今度は受託ができる業者さんがどれだけいるのかということも併せて、今、調査をかけている状況となっております。

第五小学校のときには、関東バスの営業所と車庫を使わせていただくというところで、関東バスと随意契約を結ぶことができましたが、今回はそういう条件がないものですから入札という形になります。入札ということになると、どこの業者も手を挙げる可能性がある一方で、バス会社の人員がどこも厳しいという状況がある。それから、やっぱり入札となると、直前に決まってくるというところと、自分たちが確実に請け負えるという約束がされていないというところで、手を挙げづらいというお話を伺っております。

そのあたりも含めて、入札の時期等の対策、工夫ができないかということを含めて今後検討していきたいというふうに考えております。

以上となります。

○吉原教育長 森田委員、よろしいですか。

○森田委員 ありがとうございます。大丈夫です。

○吉原教育長 ほかに、基本方針1に関してご質問、ご意見ございましたらお願いします。

○岸本委員 事業4の状況説明の②についてです。先生方の在校時間、長時間になる先生方の割合が少しずつ減っているということで、取組の成果を感じます。

一方でこの4月についての状況が記載されていますが、ここからは質問です。4月というのはいろいろ年度初めで、特に時間外在校時間が多くなる月なんでしょうか。今後、5月はどうだったかなとか、ちょっと気になりまして、ご質問いたします。

○吉原教育長 今回の岸本委員のご質問について、指導課長。

○荒井指導課長 ご質問ありがとうございます。

ご指摘のとおり3月、4月、年度末、年度初めが比較的在校時間は長くなりがちになります。ほかに中学校3年生を担当している教員に限ってになりますけれども、12月なども進路準備のために集中的な業務が必要というところがありますので、そういった波はあるというところでございます。

○岸本委員 ご説明ありがとうございます。今ご説明いただいた波を頭に入れて、今後も進捗状況を伺ってまいります。

ありがとうございます。

○吉原教育長 ありがとうございます。

ほかにご質問、ご意見ございますか。

清水委員。

○清水教育長職務代理者 まず、事業1です。前にもお話ししたと思うんだけど、この学校運営協議会の機能を有した開かれた学校づくり協議会が、学校の教育活動を展開していく上で力強く後押しをする機関として力が発揮されることを期待しております。そのことから考えたときに、ぜひ指導課のほうも各学校の強みとか課題などを学校と共有しながら助言をしていって、より良い開かれた学校づくり協議会になっていくようにご尽力いただきたいと思います。

それから、事業の4です。もう少し詳しくお話伺いたいというのが5ページの今後

の取組の①なんですけれども、A Iドリル教材というのが今どういう感じになっているのかをお話聞かせていただきたいなということと、②のおしまいの4行のところなんですけれども、年度当初というのは学校というのは非常に忙しいというのは私もよく分かっています。「始業式・入学式までに最低4日間は勤務日を確保できるよう、令和7年度中に管理運営規則の改正を教育委員会に諮る」ということが書いてありますけれども、これは具体的に言うと入学式を1日ずらすというような、そういう考えでよろしいのかということです。お願いします。

○吉原教育長 今、清水委員から、事業の1と事業の4に関してご質問いただきました。

事業の1に関しては、期待というお願いということで受け止めさせていただきます。

○清水教育長職務代理者 お願い、期待というかね。

○吉原教育長 事業の4について、指導課長、お願いします。

○荒井指導課長 まず、A Iドリル教材ですけれども、これは子どもたちがドリル教材を学習者用コンピュータ端末上で実際に問題を解いてみると、その正誤に応じて次の問題を自動出題してくれたり、その本人の得意分野・不得意分野を図で表すといった機能を持っているドリル教材を導入する方向で準備を進めているところでございます。

また、最低4日間にするためには入学式の後ろ倒しをするのかということですが、これは年度の曜日の並びなどもありますので、そういった年度も出てくるかなというふうに思っております。そのために、「後ろ倒しにする」という表現ですと、年によって状況は異なってくるものですから、表現としては「最低4日間」という表現にさせていただきます。

今後検討して、またこの会でお諮りをさせていただければと考えております。

○清水教育長職務代理者 よく分かりました。

「A Iドリル教材の費用負担等の最終的な調整」と書いてあるんですけれども、A Iドリル教材というのは、今まで、いわゆる紙のドリルと、値段がもしかしたら随分高いとか、そういうことはないんですか。

○吉原教育長 指導課長。

○荒井指導課長 いわゆる紙の教材は、私費教材として、保護者の皆様が負担されて、子どもたちが学校現場で使っているものということになっております。

A Iドリル教材、それに比べて金額がかなり異なるのではないかというご質問だと受け止めたんですけれども、現在、A Iドリル教材もかなり開発が進んでおりまして、本

当に教材によって金額があまりにも違うわけですが、そこも含めて検討しているわけですが、それほどものすごく、例えば何万円もするとか、そういった形では現在はないなというふうに認識しております。

○清水教育長職務代理者　じゃ、もう一つ、別件なんですけど、事業の5、6です。結構困難な課題やトラブルに迅速に対応してくださっていて、田中丸課長にはとても感謝しておるところでありますけれども、今この建て替えが進んでいる学校以外のこれからのことについての話合いというか調整というのが、どんなふうに進んでいるのかなということ、大まかでいいのでちょっと教えていただきたいんです。

○吉原教育長　では、学校施設計画担当課長。

○村越学校施設計画担当課長　ありがとうございます。

これからの進め方というところなんですけれども、今年度、7年度の7月に次期の学校施設整備基本計画という大きな計画、8年間ごとに更新をしていく計画なんですけれども、こちらを改定するための策定審議会を立ち上げるような形になっておまして、今年度は5回審議会を実施して、その5回目で中間まとめという形を出したいというふうに考えております。また、引き続き令和8年度に関しても5回審議会を用意しておまして、それをもって次期の基本計画のほうを答申という形でまとめていきたいというふうに考えております。その中で、この後の建て替えの計画のところも触れさせていただこうと考えております。

以上です。

○清水教育長職務代理者　分かりました。ありがとうございます。

○吉原教育長　よろしいですか。

ほかに、岩崎委員、お願いします。

○岩崎委員　3点あるのですが、1点ずついきます。

事業1の開かれた学校づくりの推進のところですが、趣旨・概要の②の地域資源を生かした学習について質問させてください。

「地域資源を生かした学習」という言葉から想起されるイメージは、地域資源を発掘して地域資源を特定、地域資源をカリキュラムに位置づけ、最終的には教育的な意味づけをすることの段階を踏むと推測されるんですが、このような地域資源を生かした学習をそのような段階を経て考えていくのに当たって、状況説明にある開かれた学校づくり協議会、自地域の特徴について熟議で振り返るというものがどんな関係にあるのか、ある

いは基本方針3にあります市民科カリキュラム推進委員会がどんな働きをしているのかを教えてください。

○吉原教育長 ありがとうございます。

地域資源を生かした学習に関して、指導課長。

○荒井指導課長 事例というよりは、開かれた学校づくり協議会がそこにどのような形で関わるのかというところかと思うんですけども、例えば子どもたちのほうから、こんな活動がしてみたいとか、こういったものを見かけたんだけどとか、そういった声が出る場合があります。

例えば本宿小学校が昨年度、市民科の活動の中で、吉祥寺駅周辺の清掃活動が今も行われているということは既に地域資源として作業としてあるわけですけども、その範囲が自分たちが求めるところと十分でないんだと、もう少し広げてほしいんだという子どものほうからの意見が提出されたことがあったんですね。それに地域コーディネーターが応えまして、活動をどのように展開していけばいいのか、そうすると子どもたちの課題意識を教育活動につなげることができるのかというあたりを検討して、開かれた学校づくり協議会のほかのメンバーにもその段階で助けを求めて熟議をした結果、実際に、今度の6月8日の日曜日に範囲を広げた形の清掃活動を行ってみて、そのまた成果と課題を話し合おうかということになっております。例えばそのような形で循環をしていくというイメージを私どものほうでは持っております。

2つ目の市民科カリキュラム推進委員会というのは主に教員のほうでつくっているものですけども、この担当者が集まりまして、それぞれの学校ごとに、その市民科の活動への理解度とかあと活動の深度というのは差があるということがよく起きますので、これを平らかにするというか相互に情報共有をすることによって、より全ての学校が積極的に市民科の授業を行えるようにというところで開催している委員会ということでございます。

○岩崎委員 ありがとうございます。大変よく分かりました。

先生方のほうで、地域資源を生かした学習というものを学習指導要領にどう準ずるかということも含めて、意味づけるというか位置づけることが非常に重要かと考えるところなんです。ですので、実際には良い活動をされているので、それをほかの自治体にも普及できるような枠組みで説明できるといいなと思いました。

2点目です。2点目は事業3の教育相談体制の充実の状況説明の①で「家庭と子ども

の支援員（常駐型）を会計年度任用職員として28人任用」というところがございます。

こういう支援をする方々が配置されるのはとても良いことですし、常駐型ですごいと思ったところですが、どのような方が支援員になっているかと思いネットで見たところ、ネット上には2025年3月の段階で有償ボランティアという名称になっています。会計年度任用職員と有償ボランティアという言葉に齟齬があるような気がしていて、実態的に会計年度任用職員ではあるものの専門的な形の支援なのか、あるいはこのような相談に対して関心を持つ有償ボランティア、交通費込みで1時間幾らというボランティアなのか整理してお話しいただけるとありがたいと思います。

○吉原教育長 子どもと家庭の支援員の役割であったり内容について、職務内容について、教育相談支援担当課長。

○志賀教育相談支援担当課長 家庭と子どもの支援員に対してのお尋ねでございます。

ネット上の情報が古いということで、大変申し訳ございません。こちら、ちょっと更新ができていないかもしれませんので、まずそれは確認して修正をさせていただきます。申し訳ありませんでした。

家庭と子どもの支援員につきましては、ちょっと名称がややこしいところではございますが2種類ございまして、家庭と子どもの支援員の常駐型の方と家庭と子どもの支援員の有償ボランティアの方と2種類区分がございまして。

こちらに記載してございますのが、会計年度任用職員のアシスタント職員という形で任用をさせていただいた28名の方について記載をしております。こちらの方々は、学校内の、登校したけれども教室に入りにくいお子さんを、「別室等」というような言い方をしていますけれども、教室以外の場所で支援をいただいている方々でございます。

もう一種類の家庭と子どもの支援員有償ボランティアのほうにつきましては、今まで例えばサポートスタッフをやってくださっていた方々なども統合した形で、こちらの方々はボランティアという形で、例えば登校渋りのお子さんを登校の見守りをしたりだとか、場合によっては迎えに行ったりだとかということも含めた対応をお願いしているという形で、ちょっと分かりにくいんですが2種類の区分があるということでございます。

以上です。

○吉原教育長 岩崎委員、今の説明でよろしいですか。

○岩崎委員 はい。私のように混乱するといけませんので、支援員と支援ボランティアのような呼称の方がより市民の方にはいいのではないかと感じたところです。

3点目は事業4の校務DXなんです、5ページの②のところの「外部コンサルタント」という言葉で、この外部コンサルタントという方々は、本市に対してどんな提案をされて、どんな方向性を示したのかお教えてください。

○吉原教育長 まず、先ほどの家庭と子どもの支援員の表記に関しては、市民の方にももう少し分かりやすい表記に直すことを検討していただきたいと思います。

では、その次、外部コンサルタントに関して、これは指導課長、お願いします。

○荒井指導課長 こちらの外部コンサルタントは東京都教育委員会の事業に基づくものでございまして、現在、学校の管理職や教員とのディスカッションを行っておりまして、提案はこれからいただけるものと期待しているところでございます。また、提案ございましたら、いずれかの機会、次の期になるかなと思いますけれども、御報告をさせていただきたいと思います。

○岩崎委員 ありがとうございます。前にも聞いたような気がして、申し訳ありません。

○吉原教育長 また、この事業の進捗については逐次報告させていただきたいと思います。それでは、基本方針1に関してはよろしいですか。

続いて、基本方針の2、事業番号でいうと7、8、9についてご質問、ご意見を願います。

森田委員。

○森田委員 2つあります。

事業の7のほうで、状況説明、今後の取組の中で、第二小学校の不登校からの復帰率が他校と比較して高いと書かれておるんですが、これは何か特筆すべきポイント、簡単に説明できるようだったらお願いします。

事業8のほうなんですけれども、これは小・中両方ですかね。発達検査のご案内をしているということなのかなというふうに読めたんですが、これは今までもやっていたんでしょうかというのをお聞きします。

○吉原教育長 それでは、まず事業7ですか、第二小学校が不登校復帰率が他校と比較して高いという結果になったことについて、指導課長、お願いします。

○荒井指導課長 第二小学校のみが行っている取組として学校風土調査というものがございます。質問としては、アンケートになっているんですけれども、例えば決まりを破っ

たりしたときに学校の先生から指導を受けるということがあると思うんですけども、それが公平・公正に行われていると思うかといったような質問が並んでいて、自分がその学校に居場所があるとか、ルールはあるんだけど納得感があるとか、参画できているとか、そういったところを調査するものになっています。

この風土調査を行った中で、子どもたちというよりは教員の中のほうで意識変革が起きて、もう少し子どもたちにきちんと説明をしなきゃいけないとか、そういった意識変革や、活動の大きな変更というよりは、少しずつの調整が行われたというふうに、第二小学校からヒアリングの中で聞いております。その結果、復帰率の数字の精査を現在行っているところですけども、他校に比べて明らかに数字が違う形での復帰率が実現できているというふうに考えております。

○吉原教育長 続いて、発達検査の案内チラシ等について、教育相談支援担当課長。

○志賀教育相談支援担当課長 では、事業8についてでございます。

こちら小・中両方なのかというお尋ねでございましたけれども、発達検査が特別支援教室の申請があった場合に、それが入室が適切かどうかというところの資料として使うための検査でございますので、小・中両方ということになります。

今までもやっていたのかというところにつきましては、今までは教育支援センターの中で教育相談員という心理士がおります。その教育相談員が検査をしていたところでございます。ただ、どうしてもそのカウンセラーの仕事をやりながら検査もするとすると、時間的になかなか限られてきたりですとか、検査の結果が出るまでに時間がかかるという課題がありましたので、今年度から教育支援課のほうで心理士を任用しまして検査をしてもらって、その時間を短縮を図りたいというところが、こちらの事業の趣旨でございます。

以上でございます。

○吉原教育長 森田委員、いかがですか。

○森田委員 もうちょっといいですか。

それは、特別支援学級に通う、通わないの子どもたちの検査になるのか、それとも保護者だと恐らくそういう子どもに対しての、あまりうまい言い方が見つからないんですが、気になるところとかがあって、そういう相談って多分心配や相談っていつもしているんだろうなというふうに思うんですけども、通常学級に通う前提であるものの、そういう検査をちょっと受けてみたいとかと思った場合、それでも検査をお願いすること

というのができるかどうか分かれば教えてください。

○吉原教育長 教育相談支援担当課長。

○志賀教育相談支援担当課長 ありがとうございます。

検査のご希望があったときに、例えば特別支援教室とか学級に入りたいとかいうこと以外の場合でございますけれども、教育支援センターのほうで教育相談の事業を行ってございます。そちらの中で、例えば保護者の方ですとかお子さんですとかの一般的なご相談に乗っているようなところがございます。その相談の中で、例えば担当している相談員であるカウンセラーが発達検査もしたほうがいいんじゃないかというような判断があったりだとか、相談の中でそういう保護者の方からのお申出みたいなものがあった場合で必要だと判断された場合には、こちらで検査を行うことがございます。

ただ、単純に検査だけをお願いしたいということに関しては、今のところお受けはしていないような状況でございますが、相談の中で必要が生じれば行っているというような状況でございます。

以上です。

○吉原教育長 森田委員、今の説明でよろしいですか。

○森田委員 大丈夫です。ありがとうございます。

○吉原教育長 ほかに、基本方針の2に関していかがでしょうか。

岸本委員。

○岸本委員 事業7で、話が重複して恐縮です。

質問というよりは感想です。状況説明の④で、第二小の学校風土調査、5月下旬に第1回を行った。そして、今後の取組のところの④、先ほど話題になった、その不登校からの復帰率が他校と比較して高くなっている、その調査を基にした指導の改善の効果が見てとれる、この時系列というかスピード感に大変驚き、とても強い印象を受けております。

この調査を基にした取組改善は各校に年度末までに還元するというのも、設定目標の④では書かれています。ただ、先ほど感じたスピード感からすると、もしかして年度末まで待たなくても、この経験を、高いエビデンスはなくとも共有していくと、さらに各校への効果が出てくるのかなと思いました。あくまでも参考まで申し上げました。

○吉原教育長 ありがとうございます。

指導課長。

○荒井指導課長 すみません。私どもの書き方が十分じゃなかったのかもしれないと、今反省をしているところなんですけれども、第二小学校の取組自体は、昨年度1年間をかけて行っております。今年度も引き続き、ですので、昨年度の研究成果をリーフレットにまとめている。昨年度1年間で復帰率がかなり高くなったというところがあります。

おっしゃるとおり、スピード感を持って対応することが重要だと考えておりますので、そこで今後の取組の④になるわけですけれども、昨年度の成果を受けて、今年度は、今度、中学校でもこの風土調査の効果が出るのかということで、直ちに第六中学校でも取組をお願いしたということになりますので、段階的にしかし着実に進めていきたいと考えております。

○岸本委員 ありがとうございます。私の誤読がありました。でも、よくご説明で取組と状況が分かりました。

先ほどの時系列は誤りでしたけれども、スピード感を持ち、かつ着実に進めていただいていることがよく理解できました。引き続き期待してまいります。

○吉原教育長 ありがとうございます。学校風土調査の成果活用については、しっかり取り組んでまいりたいと思います。

ほかに、基本方針2に関してはいかがですか。

岩崎委員。

○岩崎委員 2点あります。

1点目は、学校風土調査による第二小学校の改善が素晴らしいなと思ったところです。学校風土調査の内容を見ていませんが、先ほどのご説明で、子どもの納得という言葉が非常に印象に残りました。子どもたちが納得できる状況を聞く調査でいい調査と感じたところです。

ここからは感想ですが、学校風土調査で第二小学校が非常に改善したというプロセスの中に、教員自身が変わっていったというお話もありましたけれども、子どもたちの答えに表出されるものは、実は教員側の風土も表していて、前もお話ししたように、学校が楽しいかと子どもに聞くなら、教員にも学校は楽しいかと聞いてほしいし、子どもに学校風土はとても安心して学べるかと聞いたら、教員にも安心して教えられるかと聞いてほしいと思っているところです。

教員の方々が安心して教えられるような快適な雰囲気はどのようなものなののかに関しても目配りをされ、子どもの回答を鏡にして教員にとっても快適な学校の環境をつくれ

るような指導体制をしてもらえるといいなと思います。

2つ目も感想に近いんですけども、事業9です。セカンドスクールは本当にいい事業で、武蔵野市が誇る事業だと思っております。統括指導主事など指導課の方々が広く発信してほしいと思っているところです。

そのときに、長期宿泊体験活動の効果として、人間関係形成力とか課題解決能力というふうには、集団活動による社会性とかが涵養されるという点はもう十分言われてきているところなんですけど、もし可能であれば、やはり社会的文脈、あるいはカリキュラムでどこに位置づくか、経験に基づくカリキュラムがいかに関与があるかという観点からもアプローチされて、外に向かって発信されると普及が進むのではないかと思いますし、今後の子どもにとって重要な体験活動なので、広く社会的に広がるといいなと考えているところです。

○吉原教育長 ありがとうございます。

後段のセカンドスクールの効果検証、成果の発信については、指導課長。

○荒井指導課長 セカンドスクールは今年度で30周年というところがございます。今後、教育フォーラムでセカンドスクールを取り上げる方向で進めておりますので、その中でまた統括指導主事が発信するという場面もあるかなというふうに思っております。

○吉原教育長 発信源である統括指導主事からも。

○高丸統括指導主事 発信させていただこうと思います。

一つ社会的文脈というところ、非常に大事な視点だというふうに我々も捉えておりまして、体験した、行っただけでなく、その後の学びとしてどうつなげていくかということは各学校に指導しているところでございます。これは指導主事が毎回、それぞれの学校に行く前にヒアリングをしておりますので、事後学習をどういうふうにつなげていきますかということは聞いておりますので、その中で岩崎委員にご意見いただいたこともしっかりと生かしていきたいというふうに思っております。

○吉原教育長 よろしいですか。

○岩崎委員 よろしくお願ひします。

カリキュラムの視点からも、市民科であったり、長期体験活動とか良くやっているわけですから、カリキュラムと少し関係づけて話ができるようになると教育場面やあるいは保護者の方々にも理解が進むかなと思うところです。よろしくお願ひいたします。

○吉原教育長 ありがとうございます。

ほかに、基本方針2に関してはよろしいですか。

清水委員。

○清水教育長職務代理者 統括が今ほとんどお話しされちゃったので、あえてまた言うこともないと思うんだけど、改めてのこれお願いなんだけど、教育委員としてセカンドスクールの視察に行かせていただいているんですね。いろいろな活動がある中で、先生とお話をする中で、この活動はどのような力を育てていくのかという話になったときに、若干意識されていない先生も時々見受けられるんですね。

セカンドスクールが30周年を迎えるわけですけれども、管理職を含めて教員が異動によってどんどん替わっていくじゃないですか。そういう中で、育成を目指す資質・能力や、それを実現する活動への理解と指導の在り方について、多分ヒアリングのところで指導主事の先生方が、これはどのような力をつけるんですかなんていうお話をずっとしていると思うんです。そこのところを、先ほど統括がおっしゃったように丁寧にもう一回やって、特に武蔵野市に来られた先生が初めてセカンドを担当するとかそういうときには、そこのところをしっかりと意識して指導していくということはすごく大事なんだということ、セカンドスクールの効果をさらに高めていっていただきたいなということ、視察を通して感じたものですから、ちょっと改めてお話しさせていただきましたけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

○吉原教育長 ありがとうございます。

指導課長。

○荒井指導課長 私のほうの業務になるので、こちらからお答えしますが、今後の取組の①をご覧くださいよろしいでしょうか。

昨年度までは、事前の、今、清水委員からお話しいただいたような場面で、どうしても関係各所との連絡・調整、計画などのそういった事務的な業務についてのヒアリングも含んでいたもので、そこにちょっと時間が取られるということがございました。今年度から手配業者に一括して依頼をするという形にして、その事務的な作業は全て削減をして、言ってみれば、今言っていた中身の部分に話を集中できる環境を整えたところでございます。この成果が今後期待できるかなというところです。

○吉原教育長 統括指導主事はいいですか。

それでは、清水委員、よろしいですか。

○清水教育長職務代理者 はい。

○吉原教育長 それでは、今度は基本方針の3に移ります。事業の10と11、この2つに関してご意見、ご質問をお願いします。

森田委員。

○森田委員 事業11です。教員のやりがい支援というところで、先生たちのやりがいを支援するというのは非常に大事なことかなと思うんですけども、読んでいく限り、研修に参加するのを促したり、お金を出しますよみたいなことを書かれているのかなと思うんですが、恐らく先生方のやりがい、どういうふうにやっていきたいかというのは個人個人非常に差があると思いますので、休みが欲しいんだったら休みが取れるようなことをしたりですとか、子どもに向き合う時間が欲しいというふうなこともやりがいの一つとして、個人個人、対応できるようだったらいいなというふうな願望を持っています。

○吉原教育長 ありがとうございます。

教員のやりがい支援に関して今ご意見いただきましたが、事務局、よろしいですか。指導課長。

○荒井指導課長 今お話しいただいた部分は、教員の働き方改革にも絡む部分かなというふうに思っております。今、森田委員がおっしゃったような休暇が取れる環境であるとか、例えば男性の育休であるとか、女性の活躍であるとか、そういったところについては働き方改革のほうでしっかり進めていきたいと思っております。

○吉原教育長 よろしいですか。

○森田委員 ありがとうございます。

○吉原教育長 ほかに。岩崎委員、お願いします。

○岩崎委員 事業10に関係するかと思いますが、「探究的な学習」というのは、問いをつくって問いを解決するとの趣旨になるかと思うわけですが、翻って教員の方の探究学習で活躍されている例があったら教えてください。

○吉原教育長 教員の探究学習の例を、統括指導主事。

○高丸統括指導主事 ありがとうございます。

探究学習、教員がということなんですけれども、まず教員自身がこの探究のスパイラルを理解していく必要があると思います。おっしゃっていただいたように課題の発見、課題設定、それを情報収集して分析して、そしてそれを何かしらの形でまとめたり次につなげていく、こういったこと自体が探究のスパイラルなんだということを理解していくことがまず必要だと思っています。このことについては、実は1回目の武蔵野市民科

カリキュラム推進委員会で書かせていただきましたけれども、全員でやったところがございます。

これまでの事例というところでいいますと、例えば以前ご報告させていただきましたけれども、千川小学校さんがエコバッグを作って、子どもたちがやったというところもありますけれども、あの実践についても、教員がいきなり子どもたちに何をやっていくかということではなくて、関連してどういった実践があるだろうかということ、かなり情報を収集した上でやっているというところがあります。言うならば、教員の教材研究というものの自体が、まさにこの探究のスパイラルなんだと言えるかと思いますので、事例という意味でいうと、どの教員もやっていると言えると思えますし、それをさらに生かしていくというところで、先ほどの市民科カリキュラムの推進委員会なんかでさらに深掘りをしていくことを、今やっているところかなと考えております。

○**岩崎委員** 大人になってからの学びは楽しくないと続かないことが多いので、教員の方もわくわく感を持って、なぜかなというのを子ども以上にわくわく感を持って、学ぶの面白いよ、楽しいよというのをぜひ体現していただきたく思います。そういうわくわくしながら学んでいる先生がいたら、ぜひ教育委員としては表彰してさしあげたいので、発掘して教えてください。

○**吉原教育長** ありがとうございます。教員も探究的な学びを楽しむということをご意見としていただきました。ありがとうございます。

ほかに、よろしいですか。

それでは、今度は生涯学習事業のほうに移りたいと思います。

基本方針の4、事業の12、13、14です。これらに関してご質問、ご意見をお願いいたします。

清水委員。

○**清水教育長職務代理者** 事業の13の状況説明のところ、③ファミリースポーツフェアの参加者が2,300人ということで、非常に多い数だなと思っているところです。スポーツフェアのどんなところが人気なのかというあたり、もしお分かりでしたら教えてくださいたいと思います。

○**吉原教育長** ファミリースポーツフェアの魅力というところですね。スポーツ推進担当課長。

○**茂木スポーツ推進担当課長** ご質問ありがとうございます。

ファミリースポーツフェアは、スポーツ推進委員の運営により総合体育館、陸上競技場等にてニュースポーツ等様々なスポーツと野外活動の体験ができる自由来所型イベントであり、同時に市営プール等施設の無料開放も行う毎年開催する事業でございます。今年度は4月27日日曜日に開催いたしました。事業のサブタイトルとして「やってみようスポーツ！みんなで楽しもう！」とし、今年度は特に、車椅子バスケットボールの体験や陸上競技用車椅子体験コーナーを設置し、障害者スポーツの啓発も行いました。2,000人を超える多くの来場がございました。

以上でございます。

○清水教育長職務代理者 ありがとうございます。

やっぱり市民のニーズをしっかりと受け止めて、こういう活動を入れたら喜んで参加するだろうなというところがすごくこのスポーツフェアでできているのかなということで、ぜひこれからもそういった形で進めていっていただきたいなというふうに思いました。

○吉原教育長 ありがとうございます。

ほかに基本方針の4に関して、岩崎委員、お願いします。

○岩崎委員 事業12、「学びをおくる」ということがキーワードになって生涯学習計画がつくられておりますが、設定目標のところの①で「学びおくりあい」を推進する事業についてどのような事業を考えていらっしゃるのかを教えてくださいたいと思います。

と申しますのは、むさしのサイエンスフェスタだけが学びおくりの場の代表例で出てきており、確かにむさしのサイエンスフェスタはとても良い試みで、非常に多くの市民の方も参画されておりますが、青少年対象の色彩が強くあって、その中で例えば大人向けの学びおくりの場として何か特徴的なものを打ち出せたらいいのではないかと思うところもあり、この推進事業の検討範囲を教えてください。

○吉原教育長 「学びおくりあい」を推進する事業に関して、生涯学習スポーツ課長。

○大杉生涯学習スポーツ課長 ご質問ありがとうございます。

こちらは、事例としてサイエンスフェスタを表に出させていただいておるところですが、今、実際行っている事業の中で学びおくりに関連するものは幾つかあります。例えばふるさと歴史館で歴史館大学というのをやっております、今、7年生ぐらいまでやっているんですけども、その方たちが歴史館を使った展示を行うとか、そういったことも学びおくりにつながるものかなと思っております。あとプレイスのほうでいきいきセミナーというのを高齢者の方向けで行っておるんですけども、そのOBの方で老壮

連合会というのを作りまして、その方たちが教育委員会と共催して講義を行うということも行っておるので、一応、今、行っているものでも、ここに事例として出ていないものですが、学びおくりの該当するものがあると思っています。

先日、皆さんにお配りさせていただいたとおり、調査報告、第二期の生涯学習計画の調査をしまして、その調査報告書の結果に基づいて、今度、社会教育委員の会議などで具体的な内容を少し考えながら、これが学びおくりですといった事業をつくっていきたいと思っております。こちら今年度目標としてやっていきたいと思っておりますので、ぜひ、発表できるようになりましたらご確認いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○吉原教育長 岩崎委員、よろしいですか。

○岩崎委員 あらゆる年代の方、あらゆる環境にある方が関われる物理的な場をつくるということが生涯学習の中では非常に重要で、かつ環境整備は行政の仕事なので、このサイエンスフェスタは成功ですけれども、ほかのも列挙し、こんなに場がありますよというのが見えるといいと思いました。

○吉原教育長 ご意見ありがとうございます。

ほかに、基本方針の4に関してはいかがですか。

それでは、基本方針の5に移ります。これは、事業としては1つだけですかね。事業の15、歴史公文書と文化財の保存・利活用の推進のところですね。

これに関しては、清水委員。

○清水教育長職務代理者 よろしいですか。

状況説明の②で濱家住宅西洋館と旧赤星鉄馬邸の公開ということがあって、これ2日間で499名という人数が上がっていますけれども、この人数って相当、私としては大勢来たなど。それだけ市民、これもしかしたら市外の人もあるのかもしれないけれども、市民の関心が高いんだろうなというふうな受け止めたわけです。

これは期間限定ということで公開しているわけですがけれども、今後の予定として、例えば1週間ずっとではなくても、土日だけとか、何らかの形で継続的に公開する予定があるのかどうかということをお尋ねします。

○吉原教育長 今後の公開予定に関して、生涯学習スポーツ課長。

○大杉生涯学習スポーツ課長 ご質問ありがとうございます。

前回、平日であったんですが499名ということで、かなり、我々としても人数集まっ

てくれたなと思っているところです。

濱家につきましては、今年度の目標としても利活用ということで、継続的な活用、あの場所を使ってどういうことができるかというのを課内でも検討し、また周りの例えば成蹊大学とか、周囲の歴史が関わっている方たちなんかも含めて検討させていただいて、できるだけ継続的に、週何回なのかはまだ細かくは決まっていらないんですが、継続的な利用を検討しているところがございます。またこちらも、ちゃんと検討して発表できるようにしたいと思います。よろしくお願いします。

○清水教育長職務代理者 よろしく申し上げます。

○吉原教育長 ほかに、基本方針の5に関してはいかがでしょうか。

岩崎委員。

○岩崎委員 歴史公文書について予算化されて丁寧に記録を残す作業をしていることに非常に敬意を表します。こういった取組を安易に財政逼迫等の理由で予算削減することなく、記録を常に定期的に残して市民に伝えるということ、ぜひ武蔵野市の矜持として維持してほしいと強く願っています。

その上で、設定目標の歴史公文書等の利活用ということで、目に触れる機会というのが重要だと思っております、特に子どもたちが来るのを待つのではなく、前にも何回かお話ししているんですが、モバイル博物館という発想で、例えばレプリカでもいいので、小学校の子どもたちがばたばた走っているようなところでいいので、誰か一人でも二人でも、あ、こんなものがあるなど関心を持つような目の触れ方ができるようなやり方を考えてほしいと思います。市民に関しては一般の市民図書館の一部に巡回展示するなり、何か工夫して、歴史館に行かないと見られないのではなく、歴史館が打って出る展示する機会も少し増やしていただきたく思っています。

○吉原教育長 ありがとうございます。

市民の目に触れる機会の創出についてご意見をいただきましたが、これについて生涯学習スポーツ課長。

○大杉生涯学習スポーツ課長 ご意見ありがとうございます。現在も公文書については、もちろん今お話しいただいたことをちゃんと感じて進めていきたいと思っております。

展示に関しては、例えば五月人形だとかそういったもの、学校に一時的に展示したりとかというのは少し今もさせていただいておりますので、それも学校側のご協力をいただきながら続けていきたいと思っております。よろしくお願いします。

○吉原教育長 それでは、基本方針の5に関してはよろしいでしょうか。

最後に、基本方針の6、図書館、事業16、市立図書館を支える人材の育成、そして事業17、子どもたちの読書活動の推進、この2つに関してご質問、ご意見をお願いします。

岩崎委員。

○岩崎委員 事業16なんですけれども、指導課の方々は教育に携わっている方たちなので、人材育成が重要だということを感じられているのではないかと思います。

状況説明でいろいろな研修をしていらっしゃることは、本当によいと思いますが、ただし、多くは専門家研修なんです。教員の方々もそうですが、自分で計画して好きなところに行って学んでくる、実は遊んでいるように見えるけれどもその方が益が多いと思っておりまして、例えば清水委員と私は教育委員の研修で昭島市のアキシマエンシスに行きまして図書館のすばらしさに感動し、そういう気持ちの動きがある研修に個人個人のイニシアチブで計画を立て、行けるような仕組みをつくってほしいと思っております。もちろん、専門家研修は重要でスキルの獲得には必要ですが、司書としてのアイデンティティと意識を向上させるには、そういったいいところに行ってほしいと思います。

前もお話ししたように、伊万里市民図書館は市民と一緒に作った図書館で、武蔵野市の市民の方々には参考になる取組ではないかなとも思いますし、私の知らない図書館、いっぱいいい図書館あると思いますので、ぜひそういった研修も検討していただけると良いと思いました。よろしくお願いします。

○吉原教育長 ありがとうございます。

図書館に関わる職員の研修ですね。これに関して、図書館長、お願いします。

○森本図書館長 ご意見ありがとうございます。研修についてご評価いただいて、ありがとうございます。

ご指摘いただきました、フリーでといいますか、職員が自ら計画をしてというところでございますけれども、なかなかちょっと日常的に繁忙な状況が続いているところなので難しいところというのはあるのですけれども、こういったことは非常に重要なことだなと私自身も認識をしております。私も、定期的に都立多摩図書館、西国分寺にございますけれども、こちらのほうで会合があるときには、その周辺の図書館に少し足を運んでみたりというきっかけをつくっているところです。

やはりそういった違った目で他市の施設、図書館を見てみて、違う自治体ではこういう取組をしていると。それをちょっと俯瞰して見ることで、そこで新たな気づきであっ

たり、こういうやり方で課題を解消しているとか、例えば施設的な面であれば、ハード的な部分を見て確認できたりということはございますので、そういったところは非常に大切にしていきたいなと思っております。やはりそういったところは職員にも伝えているところでございますので、そこは今後も続けていきたいと考えております。

以上です。

○吉原教育長 岩崎委員、いかがですか。

○岩崎委員 ありがとうございます。

私は実は図書館の建物が好きで、図書館は誰でも入れる施設ですので、旅行へ行くたびにその地の図書館に行って写真を撮ってきたりしております。職員の方々も研修という形を取らなくても、館長が自らやられているように、地域の図書館の写真を1枚か2枚でも撮ってきて職員でみんなで共有するとか、ぜひ研さんに努めていただいて楽しく働かれるといいなと思います。

○吉原教育長 ありがとうございます。岩崎委員のご提案も含めて、研修の充実、取り組んでいきたいと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

清水委員。

○清水教育長職務代理者 今、岩崎委員のお話と、それから図書館長のお話を伺っていて、非常にいいなと思っております。

実は、岩崎委員は図書館の建物が好きだとおっしゃったんだけど、私、図書館全部好きなんです。しょっちゅう行っています、いろんな自治体の図書館に。

例えば展示だとか、建物を有効に生かしているというハード面もあるんだけど、私があきる野市図書館に行ったときに、図書館に勤めていらっしゃる人たちが、開館のときにみんな立っていて笑顔で迎えて、そしてすごく来館者に声をかけるんですね。こんな図書館ないなと思って、ソフト面での来館者との関わりとか、そういったものも図書館の魅力になるんだなということを感じたので、付け加えさせていただきました。

あと、別のことなんですけど、学校図書館が今すごく良くなっているということを感じています。学校公開だとか、それから教育委員訪問のときに見て、学校図書館も進化している。これとてもいいなというふうに思っているところで、やはり図書館、進化して何ぼというところがあると思うので、ぜひ武蔵野の3つの図書館もこれからどんどん進化していくことを期待して、また私も頻繁に足を運びたいと思っておりますので頑張っ

てください。よろしく申し上げます。

○吉原教育長 ありがとうございます。

清水委員からソフト面の職員の対応等の充実についてご意見いただきましたが、図書館長、お願いします。

○森本図書館長 ありがとうございます。

ソフト面についても、やはり重要な図書館サービスの要素となると考えておりますので、例えば人材育成の中に人材育成計画の改定というところもございますので、そういったところにも、日常の所作といいますか、そういった要素は非常に重要と思っておりますので、考えていきたいというふうに思っております。

ご指摘のとおり、学校図書館も含めて図書館全体で、これまでの図書館から、図書館はサードプレイスなどと言われておりますけれども、その次の展開もだんだん出てきているかなと考えております。例えば岩崎委員からご指摘いただいたような新しい取り組みたいなものもつぶさに見ながら、今後、武蔵野プレイスは一定の評価を受けておりますけれども、やはり平成23年に建って、今でも視察は多いような状況ではございますが、その次の展開を見据えて考えていかなければいけないかなと思っておりますので、そういったところも含めて今後も検討していきたいと思っております。

以上です。

○吉原教育長 ありがとうございます。

ほかに、基本方針6に関してはよろしいでしょうか。

岸本委員、お願いします。

○岸本委員 事業17の読み聞かせボランティア講座について、これも質問ではなく感想です。この読み聞かせボランティア講座は講座で学んだ人が読み聞かせを行う、これも一つの「学びおくりあい」の表れだと私は思っています。そこで、先ほどの基本方針をまたぎますが、事業12との関連というか連携について思うところを申します。

私の「学びおくりあい」の理解がちょっと広過ぎるのかもしれませんが、今申し上げた読み聞かせボランティア講座のような取組も「学びおくりあい」の理念を体現しているものと思えば、事業12の「学びをおくる」生涯学習社会の推進の仕方として、学びおくりあう機会の充実を図る、事業を充実させると併せて、車の両輪として、既に行われている事業にも、これこそが「学びおくりあい」ですよという理念の浸透みたいなことを併せてしていくと、この全体目標、「学びをおくる」生涯学習社会の推進

ということにつながるのではないかと思います。

ちょっと大きな感想になりましたが、その「学びおくりあい」の理念の浸透の仕方ということで、課をあるいは施設をまたいだ連携をご検討いただければと願っております。この「学びおくりあい」社会、武蔵野市らしさを体現するものとして大変期待している立場から申し上げました。

○吉原教育長 ありがとうございます。

図書館長。

○森本図書館長 ありがとうございます。

読み聞かせボランティアについては、委員ご指摘のとおり「学びおくりあい」の側面も当然含んでいるものと思いますし、図書館で行っている事業、こういった趣旨の事業というのはやっぱりございますので、広く言うと「学びおくりあい」の一つの既存のものではございますけれども、そういったところも当てはまってくると考えております。

全体的な市の方針に沿いまして、こういったところもより機能していくといいのかなと思っておりますので、生涯学習スポーツ課とも連携をしながら、こういった事業、今後どう展開をしたらいいのかということも含めて考えていきたいと思っております。以上です。

○吉原教育長 ほかによろしいですか。

それでは、たくさんの貴重なご意見それからご提案もいただき、ありがとうございます。また、これを事務局のほうでしっかり受け止めてまいります。

それでは、この報告事項につきましては以上で了承されたものといたします。

ありがとうございました。

次に、報告事項（２）に移ります。武蔵野市学校改築庁内調整会議設置要綱の一部改正についてです。

説明をお願いします。学校施設担当課長。

○田中丸学校施設担当課長 それでは、武蔵野市学校改築庁内調整会議設置要綱の一部改正についてのご説明を行います。

学校改築庁内調整会議、こちらは学校改築に当たり、改築する学校の施設及び設備について必要な事項の検討や調整を行うために行われる会議でありまして、構成員は教育部内の課長及び防災課長、児童青少年課長から成っておりますが、このたび教育部教育企画課の学校施設計画担当課長が新たに配属されましたので、こちらの計画担当課長を

追加するものがこの改正内容になります。

簡単ではありますが、説明は以上となります。

○吉原教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見ございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項（3）令和4～6年 武蔵野市不登校・いじめ・暴力行為等に関する実態（速報値）についてです。

説明をお願いします。統括指導主事。

○高丸統括指導主事 私から、令和4～6年武蔵野市の不登校・いじめ・暴力行為等に関する実態について速報値としてご報告をいたします。

この調査の目的ですが、近年の不登校の児童・生徒数の増加に対する手段や悪質ないじめ・暴力行為等を未然に防ぐために、市立小・中学校の実態を明らかにし、今後の対策の参考とするためでございます。昨年度は8月に報告をさせていただきましたが、今回は速報値ということで、本日ご報告をさせていただきます。

初めに、不登校、いじめ、暴力行為それぞれの定義でございますが、1枚目でございますとおり、生徒指導提要やいじめ防止対策推進法等で定められた定義に基づいてまとめてございます。

裏面につきましてが実際の数値となりますので、ご覧ください。

初めに、不登校でございますが、小学校は令和5年度の134人から151人と17人の増となっている一方、中学校では令和5年度の175人から144人と31人の減となりました。

この中学校が減少した要因として、昨年度から中学校で実施をしております不登校対応巡回教員が各中学校を訪問いたしまして、各校の不登校対策に助言や不登校生徒の支援の補佐に入ったりしたこと、あるいは先ほどから話に出ておりますが常駐型の家庭と子どもの支援員による居場所づくり、あるいはスクールソーシャルワーカーとの連携強化、こういった学校や一人一人の生徒の実態に応じた取組、居場所づくり、関係機関との連携を深めたことが功を奏したといったことが考えられます。

不登校対応巡回教員ですけれども、こちら東京都の施策となっておりますので、今年度は2名に増えております。小学校と連携した取組について、市としては今後検討していきたいというふうに考えております。また、常駐型の家庭と子どもの支援員は今年度全校に展開しておりますので、こうした中学校の効果を継続していくか、また小学校にも

波及していくか、継続的に分析をしていきたいと考えております。

先ほど来から学校風土調査のことを取り上げていただいておりますけれども、こうした学級外の居場所づくりや関係者同士の連携強化とともに、学級内における安心できる風土づくりということも不登校対策としては重要と考えております。こちらは先ほどからお話しさせていただいておりますが、第二小学校と第六中学校で現在取り組んでおりますので、こちらの効果ということも今後また見ていきたいというふうに考えております。

次に、いじめの認知件数、解消数、いじめの様態についてでございます。

いじめの認知件数は、小学校では継続的な形ですが減少の傾向、中学校につきましては昨年よりも少し増加をしております。

いじめの定義ですけれども、法に基づけば、表面にありますとおおり、いじめは当該児童が心身の苦痛を感じていればいじめということになります。その多くは解消、すなわち被害者に与える行為が止んでいる状態が3か月ほど継続している状態ということになっております。ただ毎年、年度末の時点で解消に向けて取り組み中の案件というのが一定数残っておりますので、各学校では情報の引継ぎ等を丁寧に行っていく必要がございます。また、今後、いじめ問題対策委員会やいじめ防止関係者連絡会といった諮問機関や関係者との会議でも、こちらの数値の変遷を共有いたしまして、今後の対策に関する協議を進めていきたいと考えております。

最後に、暴力行為でございますが、昨年度は令和5年度よりやや増加をしております。個人情報にもつながりますので、事案の詳細についてはここでは控えさせていただきますけれども、各案件につきましては学校と指導課で連携をして対応に取り組んでいるところでございます。

説明は以上です。

○吉原教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

清水委員。

○清水教育長職務代理者 いじめの認知件数と解消数なんですけれども、小学校と中学校を比べると圧倒的に小学校のほうが多いですね。これはどういうふうに考えたらよろしいでしょうか。

○吉原教育長 統括指導主事。

○高丸統括指導主事 ありがとうございます。

この傾向につきましては、この3年間でほぼ同じとなっておりますし、もっと言えば、さらに前から似たような傾向がございます。ですので、令和6年だけのことではないと我々も認識をしているのがまず一つあります。

その上で考えていくと、やはり発達段階というところで、どうしてもこの今のいじめの定義に基づくと、小学校の小さいうち、どうしても誰々さんにやられたとか、ちょっとしたささいないさかいというところも、この法の定義に基づけばいじめとしてカウントせざるを得なくなってくる。これを学校がしっかりとやっているというふうに考えると、小学校低学年のうちはかなり数の数になるというのは、どうしても出てくるかなというふうに思います。

中学校段階まで上がっていくと、そういったことを自分たちで解決できるようになってくるということ減ってきていると一つ言えるかなとは思っております。ただ、中学校が相談できない状況になっているというのは絶対に許される状態ではございませんので、こういった傾向につきましては中学校だけでなく小学校でももちろん共有はしておりますので、そういったことがないように、しっかりと学校の中の先ほどの学校風土、学級風土にもつながりますけれども、安心感のある状況をつくっていくこと、また仮にいじめが生じた場合には即座に対応していくことを指導しているところがございます。

○吉原教育長 清水委員、よろしいですか。

○清水教育長職務代理者 ありがとうございます。

今のお話を伺って、やはり小学校、中学校の子どもたちの発達段階が違うというところが非常に大きいんだなということを感じました。ただ、一つ一つの案件については丁寧に対応していくということがすごく大事だと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

○吉原教育長 ありがとうございます。

ほかに。岩崎委員、お願いします。

○岩崎委員 不登校に関する質問と意見です。

不登校に関して、武蔵野市が手厚く対応していることは良いことだと思っております。どこにもつながらない子どもさんがいないと、前に教えていただきました。

お伺いしたいのは、この不登校の定義の年間30日以上欠席という前に、小学校を訪問したときに、登校渋りの話を非常に課題に考えている校長先生のお話がありました。不登校以前のその登校渋りと言われる段階で介入するのが有効な場合もあるかと推測する

ところがあり、指導課として登校渋りに関するデータをお持ちなのかどうか。そして、お持ちであるなしにかかわらず、登校渋りに関して何らかの支援をする余地があるのかについて教えてください。

○吉原教育長 ありがとうございます。

統括指導主事。

○高丸統括指導主事 ありがとうございます。

岩崎委員のご指摘のとおり、我々としても登校渋りという段階で対応することが非常に大事であると思っております。指導課としての取組ということと言うならば、この5月と9月、いわゆる長期休業明けとかゴールデンウィーク明け、子どもがどうしても休みがちになるときに、登校渋りを起こしていないだろうかという調査を行っております。こちらで把握したものにつきましては、スクールソーシャルワーカー等と情報共有させていただいて、早めに対応していくということの一つやっているところでございます。

また、昨年度、この登校渋りとか、そのさらに前に3日ぐらい休む、要するに本当に欠席の傾向が見え始めたときにどう対応すべきとか、登校渋りが見え始めたときどうすべきかとか、もうちょっと長期化したときにどうすべきかと、その段階に応じてこういった取組を学校ですべきであるとか、あるいはこういった関係機関がありますという資料を作成いたしまして、それを学校とも共有して今指導に当たっているところでございます。

こういったことで、各段階に応じて、我々として支援ができること、また学校への指導を進めているところでございます。

以上です。

○吉原教育長 岩崎委員。

○岩崎委員 安心し手厚いなと思いました。子どももバディーみたいなお兄さん、お姉さんがいたりするといいのかなと思ったりいたします。まずは学校になじめるようになると、その後スムーズな道筋ができ、子どもも保護者もいいだろうなと思いましたので、よろしく願いいたします。

○吉原教育長 ありがとうございます。登校渋りの段階に応じた丁寧な対応ということで、それをしっかり実施していきたいと思います。

○清水教育長職務代理者 ちょっと付け足しをしていいですか。

○吉原教育長 清水委員。

○清水教育長職務代理者 今、統括のお話を聞いていたわけですが、それに加えて子どもと家庭の支援員がすごくいい関わりをしていて、登校渋りが見える子どもに対して、学校ではなかなかできないんだけど、支援員の方がおうちに迎えに行ったりとか、おうちの方と話をしながら、こういう取決めできませんかというような形で不登校にならずに済んだなんていうケースも多々あると思うので、やっぱりそういういろいろな形で今取り組めているのは、すごくいいなと思っています。

○吉原教育長 ありがとうございます。

家庭と子どもの支援員の関わりについて何か事務局で補足はありますか。教育相談支援担当課長。

○志賀教育相談支援担当課長 ありがとうございます。

家庭と子どもの支援員の方々、皆様に関しては特に資格は設けていないんですが、例えば地域で活動されている方などがそのまま地元の小学校に関わっていただいて、ケースとしては不登校の傾向のあるお子さんと関わって、その方につないでいただいて、例えばその地域の行事に参加できたりだとか、そういった事例もあるようですので、そういった良い事例も展開をしつつ、今後も家庭と子どもの支援員の取組の充実を図ってきたいと考えてございます。

以上です。

○吉原教育長 よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項（４）令和７年度武蔵野市立学校児童・生徒数及び学級数（確定値）についてです。説明をお願いします。教育支援課長。

○祐成教育支援課長 それでは、報告事項（４）令和７年度武蔵野市立学校児童・生徒数及び学級数について報告いたします。

まず、小学校、中学校全体の児童・生徒の数ですが、8,517名となっております。これは、昨年度が8,496名でしたので、21名の増加となっております。

小学校、中学校を別々に見ますと、小学校は6,482名、これは昨年度6,479名だったので3名の増加です。中学校の生徒数については2,035名ということで、昨年度は2,017名でしたので18名の増加となっております。

次は、下の表について、このうち特別支援学級（通級指導学級）または特別支援教室

に通う児童・生徒数の数になっております。

この中で小学校の特別支援教室については、今年度345人となっていて、昨年度317名でしたので28名の増加です。また、中学校の特別支援教室につきましては、今年度78名ですので、昨年度は70名ですので8名の増加となっております。

説明については以上でございます。

○吉原教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項（5）武蔵野ふるさと歴史館企画展「霊峰富士に祈る―武蔵野の富士講について―」です。説明をお願いします。生涯学習スポーツ課長。

○大杉生涯学習スポーツ課長 では、ふるさと歴史館の担当課長としてご説明をさせていただきます。

お手元、チラシあるかと思いますが、「霊峰富士に祈る―武蔵野の富士講―」ということで、期間は、もう始まっているんですけども5月24日から7月24日です。こちらは、ふるさと歴史館の年に4回開催している企画展の令和7年度第1回目ということになっております。

こちらは何の展示かといいますと、チラシの表のところに書かせていただいておりますが、富士山というものを神の宿る山ということで、ご神体そのものとして信仰するということが江戸時代の中後期にありまして、富士山を信仰する人たちの仲間の集まりというのが富士講になっております。

この展示のきっかけとしましては、市内の旧家から寄贈とか寄託された資料の中で、その富士山信仰に係る資料が多くあったところから、その紹介をするというような形の展示になっております。

裏面をご覧くださいまして、展示構成として書かせていただいておりますが、6つの展示構成になっています。

その中で、一番下、6番「富士山を築く」と書いてありますが、こちら特徴的な展示としまして、境にある杵築大社に、富士塚「杵築大社の富士山」ということで、市の文化財にも指定されているんですが、そちらを実際訪れた感覚になれるような形で、ドローンで撮影した動画も展示しているということです。

また、関連イベントとしましては、その下に書かせていただいておりますが、講演会

で「落語でたどる富士参詣」ということで、講師の方と落語を実演される落語家の方が来て、トークと実際の落語で富士詣りを公演してもらおうということを企画しております。

説明は以上です。

○吉原教育長 ただいまの説明に質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

◎その他

○吉原教育長 次に、その他です。その他として何かございますか。

○牛込教育企画課長 ございません。

◎閉会の辞

○吉原教育長 それでは、これをもちまして本日の日程は全部終了いたしました。

次回の教育委員会定例会は、令和7年7月7日月曜日、午後1時30分から開催いたしますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、皆様、お疲れさまでした。

午前11時49分閉会